

寄

# ロシアめざす中国車

稿

## 外車の新車市場で3.1%

社ロシアNIS貿易会 調査役 服部 倫卓

### モーターショーの鮮烈な印象

2007年9月、ロシアの首都モスクワで開催された国際モーターショーを視察した。印象的だったのは、中国の自動車メーカーが非常に目立っていたことである。会場で数えたところ、少なくとも14社に上る中国自動車メーカーの車が展示されていた。中国を専門としていない私にとっては、中国にかくも多くの自動車メーカーがあるということ自体が、ちょっとした驚きであった。しかも、それらが大挙してロシア市場をめざしているという点に、認識を新たにさせられた次第である。

### ロシア市場の概況

ロシアの自動車市場は現在、世界で最も急激に伸びている。2007年の乗用車販売台数は275万台で、前年比31%増であった。同年の中国はおよそ869万台で、20%増だったとされるから、ロシアは市場規模でこそ引きをとるもの、現時点での伸び率は中国すらも凌いでいることになる。

ロシアの好調な乗用車市場を牽引しているのは、外国車である。これに押され、品質で劣るロシア国産車は、ジリ貧と化している。2007年の販売内訳を見ると、①輸入新車：44%、②ロシアの国産モデル車：26%、③ロシアで現地生産された外国モデル車：16%、④輸入中古車（ロシアではこれも統計に含める）：14%となっている。①は前年比64%増で、②を抜いて最大のセグメントに躍り出た。また、③も前年比63%増と急拡大している。①と③を合計した外国新車市場の、ブランド別内訳を、表にまとめた。なお、ここではベスト10と、日系メーカーおよび中国メーカーだけを掲載している。上位を

占めているのは、すでにロシアでの現地生産が軌道に乗っているシボレー、フォード、ルノー等と、品質が信頼されている日本車、コストパフォーマンスの良い韓国車である。

そうしたなか、ここに来て、中国勢が徐々に台頭しつつある。2007年には、奇瑞、長城、第一、比亚迪、哈飛の中国メーカー5社の合計で、ロシア外国新車市場の3.1%のシェアを占めた。なお、このほかにも、吉利汽車（ジーリー）も一定の販売実績があるはずだが、この統計からは漏れていている。

中国メーカーのなかでも、とくに躍進しているのが「チェリー」のブランド名で知られる奇瑞である。同社の「アムレット」は2007年にロシアで1万7000台あまりを売り、外車販売のモデル別ランキングで24位に食い込んだ。

### 中国車の現地生産

フォードやルノーといった欧米の自動車メーカーに続いて、日本

勢も繰々とロシアでの現地生産に乗り出している。2007年12月には、サンクトペテルブルクのトヨタ工場で生産が始まっている。2009年初頭には日産の工場もオープンする予定で、さらにスズキ、三菱の工場がこれに続くことになっている。

中国車については、すでにロシアの地場工場にアセンブル（組み

立て）を委託する形での現地生産が始まっている。主なところを挙げると、2007年にはチエリー車が約4万台、ジーリー車が約3500台組み立てられた。

ところで、中国車のロシア現地生産を立ち上げる際に、焦点となつたのが、いわゆる「工業アセンブリ措置」であった。外資による現地生産に対して適用される関税上の優遇策であり、中国メーカーもこの特典を利用すべくロシア政府に申請を行ったとされる。しかし、ロシア政府は、中国車の現地生産には、工業アセンブリ措置をついぞ適用しなかった。その背景には、品質で外国メーカーに勝てないロシアの地場自動車メーカーにとって、低価格だけが最後の砦となつて現実がある。もしも、中国車の現地生産に優遇税率を認めたら、安い中国車が国内にはびこり、地場メーカーに引導を渡すことになりかねないと、ロシア政府は危惧しているわけだ。

### 2007年のロシアにおける外国モデル新車販売台数

ブランドとその順位	2007販売台数	前年比伸び率、%	シェア%
1. シボレー	190,553	71.0	11.6
2. フォード	175,793	51.6	10.7
3. 現代	147,843	46.8	9.0
4. トヨタ	145,478	52.0	8.8
5. 日産	116,498	54.3	7.1
6. ルノー	101,166	39.6	6.1
7. 三菱	100,609	46.1	6.1
8. 大宇	91,302	36.8	5.5
9. 起亜	78,616	31.0	4.8
10. オペル	66,329	231.9	4.0
11. マツダ	50,592	56.7	3.1
12. ホンダ	38,631	145.7	2.3
13. 奇瑞汽車	37,120	244.7	2.3
15. スズキ	28,597	77.4	1.7
19. スバル	15,553	104.5	0.9
28. 長城汽車	6,238	30.3	0.4
32. 第一汽車	2,989	132.1	0.2
35. 比亞迪汽車	2,566	51.5	0.2
37. 哈飛汽車	2,246	79.2	0.1
全メーカー合計	1,645,630	61.4	100.0

出所：ASMホールディング

トップに  
インタビュー

熊谷征男会長

東洋証券株式会社

中国などのアジア株  
の堅実な実績をあげて  
東洋証券（株）の会長、熊  
谷氏にインタビューし  
一會社の歴史は？

1915年12月に創立、9  
の歴史がある。廣島証券  
高井証券が1967年に合併  
廣島高井証券となり、  
1971年12月に東洋証券  
に商号変更し、現在に  
至る。

### 主要経営内容は？

三つの業務を柱として  
いる。一つ目は当社  
が得意としている株式  
公開引き受けである。  
広島など中国、四国を  
中心に北は仙台まで34  
店舗を開設、全国的に  
株主作りを希望する企  
業に当社が得意としている  
ネットワークが有機的に  
機能する。幹事引き受け  
では日本国内で18社  
の主幹事、約380社の  
幹事を務めた。二つ目は  
伝統的に収益を上げ  
ているデリバティブ、  
現物などを扱う自己デ  
リーリング部隊による  
投資。三つ目は中国株  
及び中国株式ファンド  
に強いことである。香港  
市場に公開している  
H株やレッドチップを中心  
に扱っている。

### 一对中事業の主要実績は？

1994年の中国青島ビ  
の香港上場を手懸けた  
最初である。中国の投  
資では2001年の利回り  
が本格的なファン  
としてスタート。アジア  
心に国際的分散投資を  
ており、『チャイナ+  
をコンセプトに、中國  
ンドを組み合わせたフ  
ドやベトナム、タイな  
扱っている。中国営業  
株式と投資信託では毎  
時6000億円を突破、營  
益に占める割合は中国  
業務が40%超となった。

幹事引き受けでは中  
企業のアジアメディア、  
チャイナポーチュ、新華